

せき損センターだより No.76

2023年11月1日発行

福岡県遠賀郡 芦屋航空祭



理念

「受診してよかった」と思われる病院でありたい

基本方針

- 1 脊髄損傷の専門病院であることを自覚し、救命救急の初期治療から社会復帰まで一貫した医療を行います
- 2 患者さんの人権を尊重した医療を実現します
- 3 安全で良質な医療を行います
- 4 高度な脊髄損傷医療の普及に努めます

「総合せき損センター泌尿器科」

泌尿器科部長 高橋 良輔



総合せき損センターは脊髄・脊椎疾患の診断・治療を専門とする病院ですが、泌尿器科では2017年4月から一般の（脊髄に異常のない）泌尿器科疾患（血尿、前立腺肥大症、尿路結石など）の診断と治療もおこなっています。また2017年7月から筑豊地区で唯一となる女性の泌尿器科専門医による女性泌尿器科外来を開設しています（毎週火・木曜午後）。過活動膀胱（頻尿、尿意がきたら我慢できず漏れてしまう）では内服薬による治療が中心ですが、腹圧性尿失禁（咳や運動で尿が漏れてしまう）では骨盤底筋体操や内服薬による治療効果が限定的なため手術療法もおこなっています。また、骨盤臓器脱（膣の壁が弱くなって膀胱、直腸、子宮などが膣の入口から出てくる）ではペッサリーによる保存的治療も選択肢ですが、やはり手術療法が有効です。当院でも膀胱瘤（膀胱が弱くなった膣壁を押しして膣口から出てくる）に対して手術をおこなっています。心あたりのある方はお気軽にご相談下さい。



The International Spinal Cord Society 2023 の御報告



リハビリテーション医師 有田 卓史

当院では積極的に海外学会にも参加し、発表を行なっています。2023年10月にスコットランドのエディンバラで行われた、The International Spinal Cord Society 2023に当院よりスタッフが参加致しましたので御報告致します。

学会は2023年10月8日から11日の日程で行われました。当院からは整形外科 林が“Impact of nutritional status and dysphagia on pneumonia following acute traumatic cervical spinal cord injury”を口頭発表で行いました。(写真1)また、ポスター発表はリハビリテーション部より小宮“Support for independence of clean intermittent self-catheterization in patients with spinal cord injury”、小川“Predictors of clinically beneficial voluntary urination in patients with motor incomplete cervical spinal cord injury (AIS C)”、村井“Diabetics Impair Functional Improvement After spinal cord injury”、整形外科より有田“ASIA Sensory Score as a predictor of respiratory function in cervical spinal cord injury”が行いました。(写真2)学会全体としては基調講演を含め、ビッグデータに言及した発表が多く見られ、いかに症例をデータベース化し、蒐集、大きい母集団で分析できるかが今後の研究の要となるという点が重要視されていたように感じました。



写真1：林の口頭発表

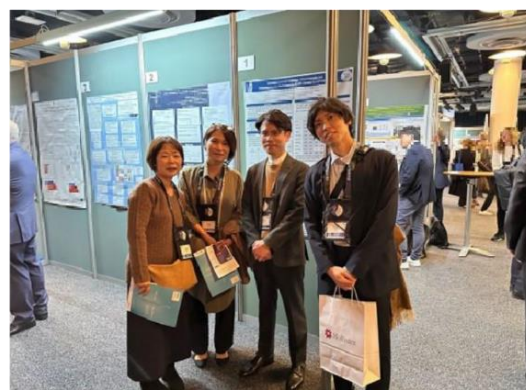
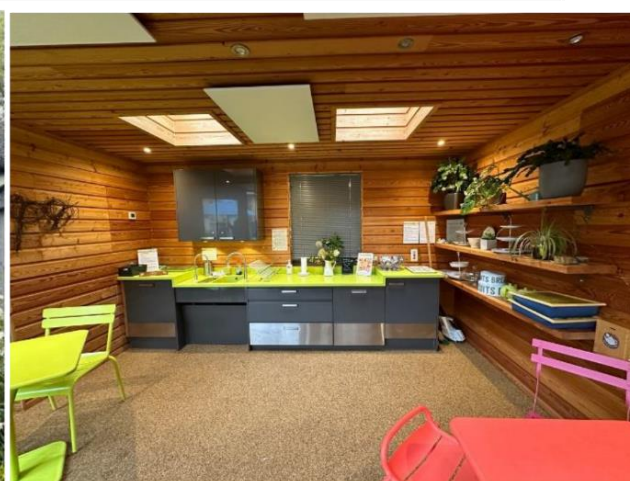


写真2：ポスター会場にて。向かって左より小宮、小川、村井、有田

写真3：Queen Elizabeth University Hospital の中庭。



他、学会側のイベントとして、6日には Queen Elizabeth University Hospital の脊椎損傷部門 Queen Elizabeth National Spinal Injuries Unit の見学会も行われました。リハビリテーション機材自体は日本のものと大きく違う印象はありませんでしたが、病院内には整備された中庭があり、患者同士、または患者家族が歓談できる Garden Therapy が積極的に行われていました。(写真3)

また、総合せき損センターの元となった、Stoke Mandeville Hospital にも訪問致しました。(写真4)Stoke Mandeville Hospital は1830年に当初はコレラ等の感染症に対応する病院として創立されました。その後、1948年に第二次世界大戦で発生した傷痍軍人を治療するために National Spinal Injuries Centre が設置されました。その後、Sir Ludwig Guttmann により脊椎損傷患者の治療、リハビリテーションはもとよりスポーツ、社会復帰にも注力する施設となりました。1960年にイタリアのローマでオリンピックが開催された際に、同地で開催された Stoke Mandeville Game が第1回パラリンピックとされています。そのため、同院には現在でも敷地内にプールや陸上競技トラックなどが備わっています。また、Queen Elizabeth University Hospital と同様に Garden Therapy が行われていた他、模擬家屋もあり自宅退院を控えた患者が家族とともに退院後の実生活をシミュレートすることもできるようでした。他にも先進医療として、機械にと患者の手指をマグネットで接続し、可動域訓練を行うマシンリハビリテーションも積極的に行われていました。(写真5)



写真4：Stoke Mandeville Hospital の Sir Ludwig Guttmann の銅像。



写真5：Stoke Mandeville Hospital の 手指可動域訓練用リハビリテーションマシン。

今後も、脊椎脊髄損傷、変性疾患等、幅広い脊椎分野について国内外の学会、論文に多数発表を行って参ります。

パラスポーツ：車椅子卓球での帯同について

中央リハビリテーション部 理学療法士



出田良輔

高浪亮太

パラスポーツとは？

パラスポーツは、リハビリテーションの一環として1940年代にイギリスのストーク・マンデビル病院ではじまりました。現在では、リハビリテーションという側面から、プロフェッショナルスポーツの競技へと発展しており、多くの障がい者がアスリートとして活躍しています。第16回大会となる2020年東京パラリンピックでは、公式競技は22種目まで拡大されています。今回は数多くある競技のなかでパラ卓球競技で、日本代表強化選手である島也選手に帯同する貴重な経験をしたので紹介します。

肢体不自由者卓球のルール

基本的には一般の競技規則に準じて行われます。車椅子使用者は、障がいを考慮して「サーブがサイドラインを切った場合はレット（無効）となり、サーブがやり直しとなる」等の特殊なルールに一部変更されています。また、障害の程度により「クラス分け」され、同一クラスで競います。

	重度	障がいの程度			軽度
車椅子	Class1	Class2	Class3	Class4	Class5
立位	Class6	Class7	Class8	Class9	Class10

～パラリンピック出場までの道のり～

1. 日本肢体不自由者卓球協会へ選手登録
2. 国際クラス別パラ卓球選手権大会に出場
3. 日本肢体不自由者卓球協会の選考に基づき、国際大会へ出場
4. 国際大会で好成績を収め、世界ランキング上位を目指す 大陸選手権に出場し優勝する
5. パラリンピック出場枠の獲得

パラリンピックの出場枠を獲得するためには、国内のパラ卓球選手権大会に出場し、好成績（優勝）を収めて国際大会へ出場する必要があります。加え、国際大会での実績が、パラリンピック出場のための必要条件となります。

現在、国内のパラ卓球選手権大会（Class 1）で多数優勝されている島也選手が、（公財）日本パラスポーツ協会による強化選手育成プログラムの一環としてされている「国際パラ卓球大会」のフィンランドオープンとイタリアオープンに、日本代表選手として参加されました。本国際大会では、日本国内で好成績を取めた20名以上の選手が実際に現地に行き、Class別で順位を競います。

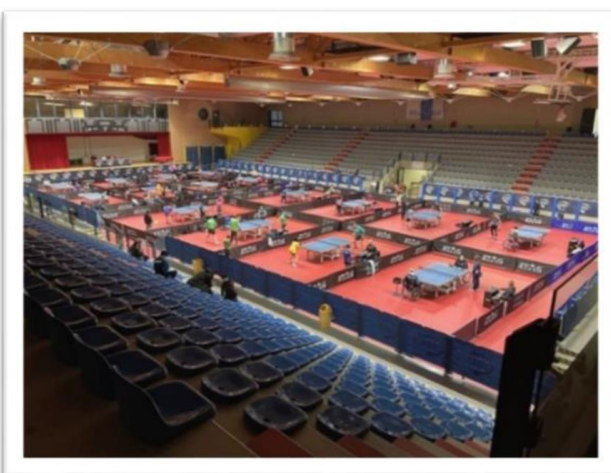
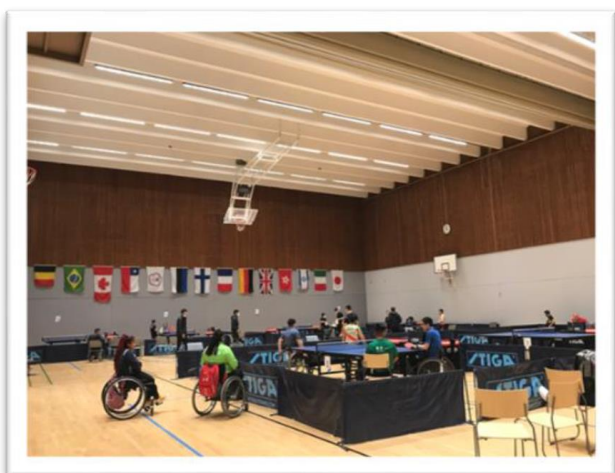
今回、そのスタッフとして帯同させて頂きました。海外遠征の帯同時は、遠征期間が移動を含め1週間ほどでした。卓球の練習補助から選手の痛みを和らげる目的でストレッチ等を行いました。頸髄損傷の方であるため、日本からフィンランド・イタリアへの長距離移動および慣れない環境に対するサポートが必要となります。移動中の移動介助、長時間の座り姿勢による褥瘡予防のための除圧、遠征前および大会中のコンディショニング管理など普段の業務では得られない貴重な経験をさせていただきました。



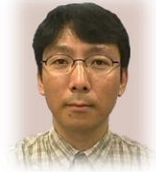
フィンランド/ラハティ



イタリア/リニャーノ・サッビアドーロ



フィンランドオープン・イタリアオープンにて（上段;会場、下段;試合会場）



立てる車いす

車いすを利用している人は、自分で立つことが出来ない方も多くいらっしゃいます。しかし、国内外の企業から、立位姿勢に変換できる手動の自走車いすが開発され、市販化されています。国内では、日進医療器株式会社が製造販売しています。そんな中で、新しく株式会社ミキから立ち上がり機能の付いた車いすが開発・市販化されました。



日進医療器製の立位車いす

医用工学研究室でもそれぞれ展示しています。定期的に当センターに研修にいらっしゃる九州大学医学部の学生さんらにも、毎回この車いすを紹介していますが、皆さん驚き感動されます。一般的にはあまり知られていないのが実状です。

同じ機能ではありますがこの2台はどう違うのでしょうか？



ミキ社の立位車いす

同じ機能と異なる目的

研究室にある日進医療器の立位車いすは、過去にも何度か患者様に試していただきました。退院後の立位訓練として・職場で活用・結婚式でのスピーチ・結婚式衣装の前撮り等に利用がありました。このように、日常的に乗っている車いすとは別に所有し、必要時のみ利用するスタイルが多いように感じています。立位姿勢はこちらの方がより垂直に近い角度まで実現できます。バックサポートや座面と身体とのズレも抑えられており、スムーズに立位姿勢に変換できます。ですが、これらの性能を確保するために、車いす自体の寸法が大きくなりがちです。座面やフットサポートの床面からの高さも、一般的な車いすより高く設定されています。複雑な機構を実現させるためのフレーム構成なので、重量も重たくなります。

一方で、今回新しく開発された車いすは、ミキ社の開発担当者が自ら立案し、開発、販売に至ったという、日常的な利用を意識した構造になっているとのこと。この方自身も脊髄損傷者で日常的に車いすに乗っています。自分自身が自宅で日常的に乗りたい立位機能の車いすを目指したとのこと。写真を見て分かるように、脊髄損傷者の日常生活用車いすの大きさや形状と大きな差がありません。重量はもちろん重たくなりますが、日進医療器製の立位車いすよりも軽量化されています。座面やフットサポート高さも、日常生活用車いすとほぼ変わりなく、座位姿勢で平面をこぐにはほとんど負担を感じません。中間立位（座面を前方に傾けた状態）では、ハンドリムに手が届くので少しの移動なら可能です。しかし、完全な立位姿勢を実現させるときに、少し腕力が必要なことや、日進医療器製の立位車いすよりも少し後方に傾斜した立位姿勢になることを感じます。

立位時の姿勢や角度に重きを置くか、日常生活での使い勝手に重きを置くかで、選び方が異なると思われます。

両車いす共に、当研究室に展示していますので、ご興味のある方は是非体験にお越しください。

外来担当表

令和5年9月1日～

曜日	月	火	水	木	金	○ 診療科 整形外科 泌尿器科 リハビリテーション科
整形外科 (再診のみ予約制) リハ科	藤井	林	有田	林	益田	
	森下	交代制	森下	藤井	交代制	
	坂井	有田	久保田	坂井	久保田	
	畑	畑	入江	入江	—	
	前田	河野	益田	前田	河野	
再診のみ	久保田					
泌尿器科 (再診のみ予約制)	高橋	今田	高橋	今田	高橋	
	今田	高橋	今田	高橋	今田	
女性泌尿器科外来	毎週/火、木曜日 受付/13:00～15:00					

診療受付時間 (月曜日から金曜日) 新患 8:30～10:30 再来 8:30～11:30 (泌尿器科は11:00まで)
休診日 土・日曜日及び祝日 年末年始(12月29～1月3日)
宿泊施設 遠方からの受診者宿泊施設として厚生棟(はなみずき)をご用意しております。ご利用の方は総務課までお申し出ください。 (申込受付時間:平日8:30～17:00)

- ◎泌尿器科は再来のみ時間帯予約制です。 TEL0948-24-7500 (14～16時予約・変更受付)
- ◎整形外科は再来のみ時間帯予約制です。 TEL0948-24-7500 (14～16時予約・変更受付)

周辺地図

福岡方面
からお越しの方

JR+西鉄バスの場合

- JR「博多駅」→(福北ゆたか線/快速40分)→「新飯塚駅」下車
- 西鉄バス「新飯塚駅」→(飯塚行き等/10分)→「飯塚バスターミナル」にて乗換
- 「飯塚バスターミナル」→(伊川温泉行き/20分)→「せき損センター」下車
- (坂の下行き/20分)→「東伊川」下車→徒歩10分

北九州方面
からお越しの方

JR+西鉄バスの場合

- JR「小倉駅」→(鹿児島本線/20分)→「折尾駅」にて乗換(新飯塚駅直通も有)
- 「折尾駅」→(福北ゆたか線/40分)→「新飯塚駅」にて下車
- 西鉄バス「新飯塚駅」→(飯塚行き等/10分)→「飯塚バスターミナル」にて乗換
- 「飯塚バスターミナル」→(伊川温泉行き/20分)→「せき損センター」下車
- (坂の下行き/20分)→「東伊川」下車→徒歩10分



SPINAL INJURIES CENTER
 独立行政法人労働者健康安全機構
 総合せき損センター

〒820-8508 福岡県飯塚市伊岐須550-4
 TEL0948-24-7500 FAX0948-29-1065
 ホームページアドレス <https://seki.sonh.johas.go.jp/>
 発行責任者: 院長 前田 健